

2018年度 第2ペガサス自己評価

当事業所では、提供するサービスの質について、保護者の皆様へのアンケート調査結果も踏まえ自己評価を行っております。指定基準を満たしたうえで、より良いサービス提供を目指し、自己評価の結果を公表することで、皆様に安心してご利用いただく一助となればと考えております。なお、この評価基準は、厚生労働省が定める「放課後等デイサービスガイドライン」の基準をもとに作成しております。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		テラスが広いことは強みであるが、雨天時等の室内の狭さは課題。トライアングルを利用するなどして工夫をしている。
	2 職員の配置数は適切であるか	○			人数及び資格等、基準以上の配置がされているが、男性利用者が多いことから、男性支援員の複数配置が好ましい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	事業所が2階にあるため、階段を上らなければならない。また、階段や室内の段差が多く、歩行が不安定な利用者には介助を要する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			月1回行われる職員会議では、土曜日の活動内容の振り返りを行い、改善を図っている。出勤後にはミーティングの時間を確保し、一日の活動内容の確認をしている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			JS研究会にて発表し、改善点を明確にしている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			昨年度から評価結果の公表が義務づけられたこともあり、ホームページにて公表(三事業所の集計結果)。また、第2ペガサスのみの結果は書面でも配布している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		年に2回、法人全体の第三者委員会が実施されており、外部評価を行っている。また、保護者(第三者)の評価を受けて業務改善を図っている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			法人として定期的に研修の機会が確保されている。その際勤務形態の調整をし、なるべく参加できる機会を増やす。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			年度初めに頂き親の願いを基に、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)を作成。また、子どもの様子もわかるように掲載した上で作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		担当者会議やケース検討など、利用者の適応行動の状況を図る為に使用することはあるが、頻度は少ない。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			職員会議の際に、全員でプログラムの立案を行う。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			職員個々の強みを生かした取り組みをしている。また、季節を感じる事の出来るプログラムや、子ども達に人気のあるプログラムを取り入れている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			利用時間や季節に応じて、活動内容を工夫している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別活動の確保は難しいが、本人の特性を把握したうえで、個別での関わりも大切にしている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援開始前にミーティングの時間を設け、情報の共有や当日の役割を確認している。また、活動リーダーは持ち回りでを行い、全員がリーダーの意識を持てるようにしている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			個別記録を書いている際に、子どもの様子や保護者からの連絡を共有している。振り返りの時間を確保し、時間をかけて行っていくことが課題。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			個人記録と一日の活動の記録を必ず取っている。個別支援計画の狙いや手立てを意識した取り組みは十分とは言えない。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			全員でサービス計画の確認をしているが、それを反映した支援や、サービスの見直しはできていない。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			土曜日や長期休みの日には、昼食作りやおやつ作り、工作活動を行っている。また、昼食の買い物や外食時には、地域交流の場にもなっている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			主に計画作成者が参加し、必要に応じてふさわしいものが参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			学校への迎えの際に出来る限り情報共有をし、コミュニケーションを図っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		必要に応じて、医師からの指示書を手出してもらっている。また、法人としても嘱託医（岡田先生）と連携している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			今年度は特に、リトルペガサス卒室生の利用者が多く、情報共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			必要に応じて情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			保育所等訪問支援（リトルペガサス）との情報共有など、必要に応じて行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	そうした機会がないため、今後の課題である。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか			○	柏市のこども部会に参加し関係情報の入手や関係事業者との交流をしている。現在、出席するのが管理者のみであるため、今後は他職員も参加していくことが課題。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎の際や連絡帳にてやりとりをし、情報共有をしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	保護者が参加できる勉強会の機会を作り、周知していくことが今後の課題である。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			利用契約時、また年に2回の保護者会にて行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			送迎時や連絡帳等で、必要に応じて行っている。

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		4月にペガサスとの合同の保護者会を開催しているが、参加者も決まっています、交流・連携の場としては判断しづらい。そのため、昨年度より第2ペガサスのみで保護者会を実施。普段は顔を合わせない保護者同士の関わりも多く見られた。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○	苦情や相談があった場合には、迅速に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		活動内容がわかる写真やコメントを毎月発行しているニュースに掲載している。また、法人で行われるイベント時には事業所紹介を兼ねてポスターを作成し掲示し、活動の様子がわかるようにしている。
	35	個人情報に十分注意しているか	○		利用者の情報がわかるものは持ち出し禁止とし、注意して扱っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子ども一人ひとりの意思伝達手段を尊重し、自己決定ができるよう配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	法人としてのイベントを多く開催しており、地域の方と関わる機会となっている。だが、事業所発信で行われるイベントはない。
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○	
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		法人で行われる避難訓練(年1回)のほか、11月には避難訓練週間を設け、どの利用方も訓練ができるようにしている。
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		勤務調整を行い、積極的に参加している。
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○	現在身体拘束を要するケースはないため特に行っていない。
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		保護者の指示で対応している、
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	日誌にヒヤリハット、ヒヤリ案件の記入欄を設けているが、職員によって認識に違いがある為、共有すべき。